



2019年11月14日

各 位

会社名 株式会社リニカル

代表者名 代表取締役社長 秦野 和浩

(コード番号：2183 東証第一部)

問合せ先 専務取締役管理本部長 高橋 明宏

(TEL. 06-6150-2582)

2020年3月期第2四半期業績と前年第2四半期の 業績の差異に関するお知らせ

2020年3月期第2四半期累計期間（2019年4月1日～2019年9月30日、以下「当第2四半期」）と、2019年3月期第2四半期累計期間（2018年4月1日～2018年9月30日、以下「前年同四半期」）の連結業績の差異について、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 当第2四半期と前年同四半期の連結業績の差異

(単位：百万円)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に 帰属する 四半期純利益 | 1株当たり 四半期純利益 |
|-------------------------------------|-------|-------|-------|--------------------------|-----------------|
| 前年同四半期業績(A)※ (2019年3月期第2四半期累計期間) | 5,612 | 646 | 748 | 386 | 17円02銭 |
| 当第2四半期業績(B) (2020年3月期第2四半期累計期間) | 5,389 | 571 | 484 | 230 | 10円20銭 |
| 増減額(B-A) | △222 | △75 | △263 | △155 | |
| 増減率(%) | △4.0 | △11.7 | △35.2 | △40.3 | |

※2018年4月16日に行われたAccelovance,Inc.（現Linical Accelovance America,Inc.）との企業結合について前年同四半期において暫定的な会計処理を行っていましたが、2019年3月期連結会計年度末に資産・負債へ取得原価の配分が完了しております。これに伴い、前年同四半期業績について、当該結果の内容を反映させております。

2. 差異の理由

当第2四半期連結累計期間の連結業績は、日本をはじめ、欧州、韓国、台湾子会社の業績は概ね期初想定通りに推移しました。更に米国においては前期からのマネジメント強化、営業力の増強、リストラチャリングの成果が発現を始め、下期以降のV時回復に向けた足場を固めました。また、中国においても当社直轄子会社が事業を開始し、今後拡大すると思われれます。しかしながら、円高の進行により海外子会社の売上高が日本円換算で目減りした他、日本で前期から当期にかけて複数の大型案件が完了し新規案件が開始する狭間となったこと等もあり、売上高は5,389百万円（前年同四半期比4.0%減）と前年同四半期比では減収になりました。なお、日本、アジア、米国、欧州における当社グループのグローバル受託体制の拡大と営業活動により、外資系大手グローバルCROとの競争環境下においても国際共同治験を含む複数の新規案件を獲得し、受注残高は順調に増加しております。また、営業利益は売上高同様に概ね期初想定通りに推移しているものの、米国子会社買収に伴う売主とのクロージング価格調整交渉等のための弁護士報酬が発生したこと等により571百万円（同11.7%減）となりました。経常利益は前年同四半期は円安により外貨預金等に116百万円の為替差益が発生したのに対して、当期は円高により外貨預金等により為替差損63百万円等が発生したため484百万円（同35.2%減）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、2019年10月18日に「当社海外子会社に対する仲裁の申立に関するお知らせ」にて公表しましたとおり、米国での仲裁対応のための弁護士報酬等の費用が発生したことから230百万円（同40.3%減）となりました。

以 上